

1 国語

*** 開始の合図があるまで、開いてはいけません ***

試験が始まるまで、下の〔注意事項〕を読んでおいてください。

〔注意事項〕

- 問題用紙は表紙をふくめて6枚、解答用紙が1枚あります。
- 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 国語の試験時間は、50分です。
- 印刷の見えにくい場合のほかは、質問を受けません。
- ホッチキスは、はずしてもかまいません。
- 必要なものは、えんぴつ、消しゴムです。

※問いに字数制限がある場合は、句読点をふくみます。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

確か、小学六年生。卒業の年だった。その年、早穂と彼女は同じクラスで、①ゆかりは一学期の学級委員長を務めていた。学級委員長というと、クラスのまとめ役で、人気がある子がやるように思われがちかもしれないが、早穂たちの当時のクラスは、それは面倒で誰もやりたがらない係だった。

ゆかりは勉強ができたし、変に目立ちたがり屋だったから、誰も他に候補が出ない中、学級委員長になった。早穂たちのクラスの担任は、若い男の先生で、優しく、他の先生たちよりかっこいい、と騒がれている人だった。みんな、先生のことが好きだった。

一学期の学級委員長だったゆかりは、いろんな行事の打ち合わせや、先生の手伝いをよくしていて、先生とも急速に仲良くなっていた。

早穂はそれを見て、羨ましくなった。何気なく、友達に「②二学期は私が委員長、立候補しようかな」と言ったところ、他の子から「それ、すごいいいよ！」と背中を押された。

「そしたら、私、副委員長になる」

当時のクラスには、委員長の下にはそれぞれ男女一人ずつ副委員長がいた。話がまとまり、すっかりその気になっていた夏休み近く、ゆかりが思い詰めた顔をしながら、早穂たちの席に近づいてきた。

普段、あの子は、人気のない子だけで構成される、寄せ集めのようなグループにすることが多く、教室の、自分たちの席の方には滅多にこなかった。二つのグループの間には、見えない国境とも呼ぶべき線があった。

「——早穂ちゃん、二学期の委員長、立候補するの？」
「しないよ」

咄嗟にそう答えてしまったのは、どうしてかわからない。けれど、今、大人の世界の選挙で見ても、それはよくあることだ。出ない出ない、と言いつつ、直前で意向を変えて出馬するような人たちの気持ちだが、早穂には何となくわかる。

③ゆかりは、早穂の答えを喜びはしなかった。言葉を感じた様子もなく、何かを言いたげに唇をぎゅつと引き結んで自分の席に戻る。その後ろ姿を見て、④早穂は気の毒に思った。「出ないでほしい」と思うなら、はつきりそう言えばいいのに。二学期になって行われた選挙で、ゆかりと早穂は、ともに学級委員長に立候補した。

二人で黒板を背に立ち、模造紙に自分の方針を書いて発表し合う。その模造紙は、早穂は周りのみんなに手伝ってもらったもので、ゆかりは一人で書いたものだった。

ゆかりに票を入れる人なんて、おそらくいない。

本人も、その自覚があったのだろう。前に立って発表しながら、ゆかりは肩が震え、声がたどたどしくなって、息継ぎまであやしくなった。極度に緊張して、とても最後まで発表を続けられそうもなかった。

早穂は、普段から、面倒見がいい、と言われるタイプだった。

⑤見ていられなくなって、立ち上がり、ゆかりの背中をさすった。まだ泣いていないけど、泣いている子を慰める時のように。

ゆかりの背中が汗ばんで、それで震えていて、早穂の手を振り払わず、どうにか最後まで発表を終えた。

小声で、「ありがとう」と言われた。そのまま、俯いて、ひっこ、ひっこと泣き出した。この、すぐ泣く、というのもゆかりが周囲から煙たがられた理由の一つだ。

選挙は大差がつき、二学期の委員長は早穂になった。

副委員長に立候補する、と言っていた早穂の親友は、結局選挙に出なかった。ゆかりがあまりに泣くので、先生が気をきかせて「じゃあ、副委員長をしたらどうだ」と彼女に聞いたからだ。

もう六年生だったし、周りこそまで子供ではなかった。早穂の親友も、あっさり、それならば、と引き、立候補しなかった。

早穂とゆかりは、だから少なくとも六年生の二学期、委員長と副委員長という間柄だったはずだが、その後の記憶は不思議と薄い。選挙のことだけが鮮明だ。

⑥後から振り返って、早穂はこのことを、残酷だったのではないかと、思い当たった。何年も経って、すでにもうゆかりと会うこともなくなったような頃のことだ。

仕方なかったとはいえ、ライバルに背中をさすられながら発表するなんていうのは、ゆかりにとってはあまりに屈辱的だったのではないか。

運動神経がよくて、男子からも人気があった早穂は、班替えの時にはまつさきに選ばれるような、所謂「いい女子」だった。*自惚れとかおごりではなく、客観的な事実としてそうだったろうと思っている。ゆかりも、新しいキャラクターグッズを買

ったりすると、それをちらちらこっちに見せながら、早穂のグループに入りたそうにしていた。その自分にあんなことをされるなんて、彼女のプライドは傷ついたかもしれない。

「早穂とゆかり」（辻村深月）より

〈注〉

*自惚れとかおごりではなく：実際以上に自分がすぐれていると思ひ込んで得意になったりとか、いい気になったりとかしているのではなく

問一 ― 線部①「ゆかりは一学期の学級委員長を務めていた」とありますが、ゆかりが学級委員長を務めた理由を早穂はどのようにとらえていましたか。本文中から二十五字以内でぬき出しなさい。

問二 ― 線部②「二学期は私が委員長、立候補しようかな」とありますが、早穂がこのように発言したのはなぜですか。本文の言葉を使って、五十字以上、六十字以内で理由を説明しなさい。

問三 ― 線部③「ゆかりは、早穂の答えを喜びはしなかった」について、次の(1)(2)に答えなさい。

(1) ゆかりは、早穂とのやりとりからあることに気づきました。どのようなことに気づきましたか。十五字以内で答えなさい。

(2) (1) のことに気づいたゆかりの気持ちとして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 早穂に肩を並べることになると気づいて緊張している。
- イ 早穂が腹を割ってくれないと分かっている。
- ウ 早穂が二の足を踏んでいると知って不思議に思っている。
- エ 早穂に鼻であしらわれたことに対して悔しく思っている。

問四 ― 線部④「早穂は気の毒に思った」とありますが、早穂の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 傷ついているゆかりに対して何もしてあげられない歯がゆさ
- イ 早穂の言葉に思い詰めているゆかりに対するもうしわけなさ
- ウ 自分の思っていることをはっきり言えないゆかりへのあわれみ
- エ 自分の思っていることと反対のことを言ってしまった気まずさ

問五 ― 線部⑤「見ていられなくなって、立ち上がり、ゆかりの背中をさすった」とありますが、このときの早穂の気持ちを説明しなさい。

問六 ― 線部⑥「後から振り返って、早穂はこのことを、残酷だったのではないか、と思ひ当たった」とありますが、「残酷だった」というのは、プライドを傷つけたということです。早穂が思ひ当たった「彼女のプライド」の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一学期の学級委員長としてみんなから選ばれ、面倒な役割もこなしてクラスをまとめたしつかり者というプライド
- イ クラスの人気の自分は、いつも他人に情けをかける側で、他人から情けをかけられる側ではないというプライド
- ウ みんなからの人気はないが、自分は、学級委員長としてクラスの中心におり、クラスをまとめているというプライド
- エ 「面倒見がいい」というクラスのみんなからの評価にふさわしい行動をして周囲の期待に込んでいるというプライド
- オ 人気者グループに所属していないのは、入れてもらえないからではなく、自分の意志で入らないのだというプライド

問七 早穂の人物像として適切なものを、次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分はクラスの中心にいるという自覚があるため、周囲を自分より下に位置づける傾向がある人物
- イ 自分一人では何もできずおとなしくしているが、仲間がいると調子づいていばった態度をとる人物
- ウ 勉強がよくできることに加えて目立つことが好きで、都合が悪くなるとすぐに泣いてごまかす人物
- エ 男女問わず好かれていみなから人気があり、困っている人や弱い立場の人にやさしく接する人物
- オ 運動神経がよくクラスのリーダー的存在であるが、常に自分の思うように周囲を動かす強引な人物

□ 次の文章【A】【B】を読んで、後の問いに答えなさい。

【A】 数年前から、日本では15歳以下の子どもは犬猫の数が上回ったといわれている。犬猫以外にもモルモットや小鳥、亀、金魚など、^A タシユにわたるペットがいる。日本は有数なペット大国となった。

一方で、日本はロボット大国としても知られている。人間の代わりに重い荷物を運ぶ産業用ロボット、深海や地雷原など危険な場所で働く探索用ロボット、診療や手術を補助する医療用ロボットなど、さまざまな用途で開発され、すでに実用化されているものもある。最近ひときわ注目を浴びているのがヒューマノイド（人間型）ロボットだ。

パナソニックのエボルタ電池を搭載した手のひらサイズのミニロボットは、アメリカの*グランドキャニオンの登頂に成功した。乾電池の性能を証明する試みだったが、見ている私たちは、ロボットがロープを登るたびにがんばれと声援を送りたくなった。このロボットを製作した高橋智隆氏によると、これからはロボットに仕事をしてもらうのではなく、ペットのようにつき合えるヒューマノイドの時代だという。直立二足歩行をするホンダの*アシモも、人間と協調しながら動くヒューマノイドロボットに変身しつつある。

ロボットは20世紀初めに化学的合成人間として登場し、その後主体性を人間に委ねる機械として定義されるようになった。^B アイザック・アシモフのロボット三原則（人間への安全性、命令への服従、自己防衛）は有名である。それが時代を経て、人間に愛護される^C タイショウとして生まれ変わろうとしているのだ。

私は、^① ペットや動物とロボットは対極的な存在だと思う。動物は人間とは姿形が違ちがうし、コミュニケーションの方法や求めていること、理解の仕方も異なる。それでも私たちは動物に話しかければ、彼らなりの方法でそれにこたえてくれるはずだと思いきこんでいる。単に私たちが彼らの反応を勝手に解釈しているだけかもしれないが、それを証明するのは難しい。それに、そんなことを確かめなくても^D シショウはない。ペットと共存できていれば、私たちは満足感を覚える。ロボットは正反対だ。人間がつくったから、人間の計算通りに動いてくれなければ困る。仕事を効率よく安全に進めるために、不満を言うことなく、同じことを何度でもくり返してくれる。融通は^E キかないが、人間の望む通りに改善し動かすことができる。だから、その前で人間は不安を抱かない。何トンもあるトラックが目の前に迫せまつてきても不安を感じないのに、ゾウが目の前に迫れば恐怖にかられる。それはゾウの心が読めず、人に慣れていても何をするか完全には予測できないからだ。ヒューマノイドはいくら外見が人間に似ていても、機械である限りそのような不安を覚えずにすむ。ロボットは動物のような命や魂をもっていないからである。

その常識がどうやら変わりはじめた。^② 今、動物の姿をしたロボットたちが人間の世界で活躍しはじめている。イヌの*AIBOやアザラシの*パロは、安全で手間のかからないペットとして人々の心を癒やしている。ヒューマノイドがそういった特徴をもって人間の世界に入ってくるかもしれない。現代の技術では、人間の語りにロボットが反応するだけでなく、人間に語りかけてくれることも可能だそうだ。人間のしたいことを先回りして提案してくれるものもできつつある。ネット上のマーケティングのように、その人の過去の注文にもとづいて次に求めるものを提案してくれるのである。

ペットの動物とロボットとの溝は急速に埋まりつつある。ひよつとしたら、子どもの代わりにロボットをもつ人が増えるかもしれない。ロボットはいつまでも子どもでいてくれるし、不満を言わずに介護までしてくれるからだ。

しかし、ロボットと動物の違いは重要だと私は思う。生物は自分が生きるために自己主張をし、成長し、やがて死んでいく。私たちに制御できない自然の営みだ。それに寄り添い、共感することで、自分も生物であることを実感する。動物を完全には操作できないから、その主張を認め、相手を信頼しようとする。その心の動きは相手が人間であっても同じことだ。

ヒューマノイドの登場は人間が今、自己主張せずに気遣きづかつてくれるパートナーを求めていることを示唆している。ただそれは、ロボットを人間にするのではなく、^③ 人間のロボット化、機械化を意味してはいないだろうか。

「ゴリラからの警告『人間社会、ここがおかしい』」（山極寿一）より

〈注〉

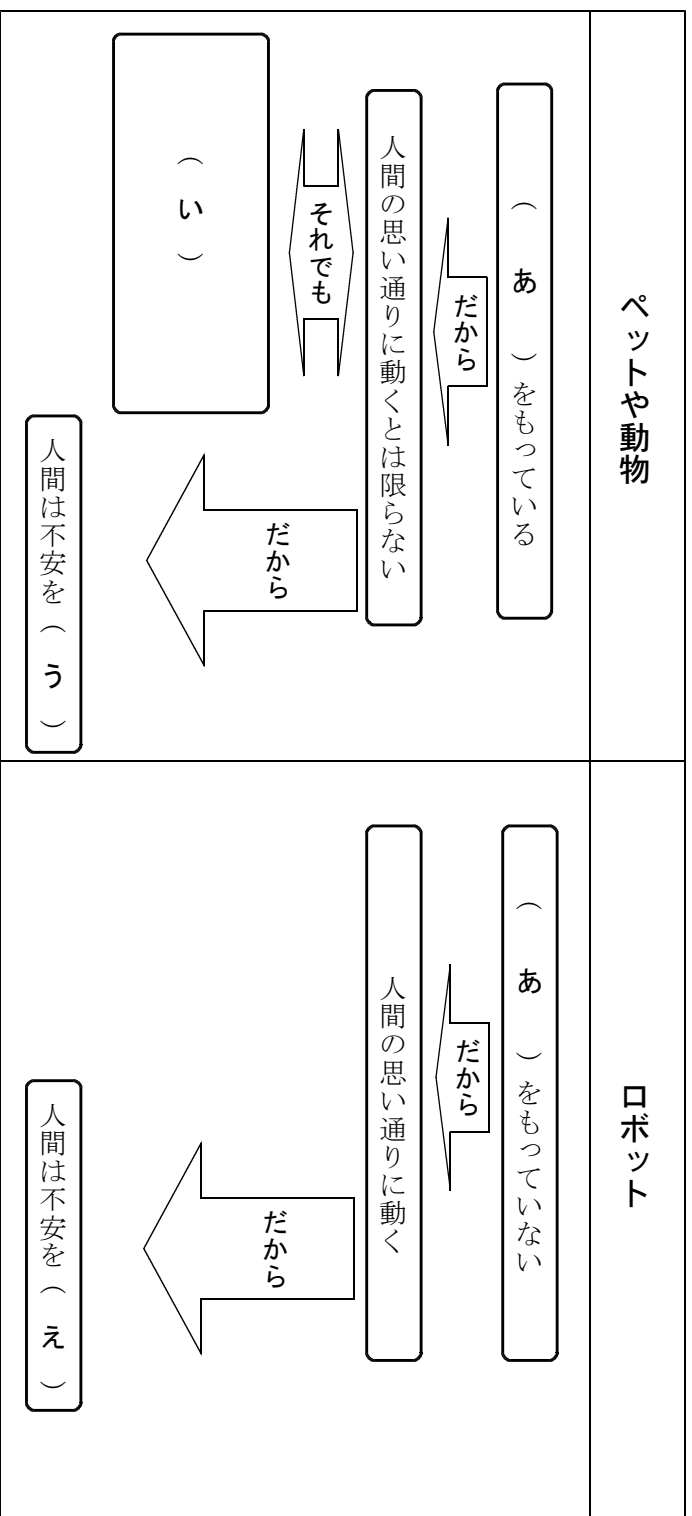
*グランドキャニオン：アメリカ合衆国アリゾナ州北部にある峡谷。

*アシモ・AIBO・パロ：それぞれ、二足歩行が出来る人型ロボット・犬型ロボット・アザラシ型ロボットの名前。

*アイザック・アシモフのロボット三原則：アメリカのSF作家が小説で示した用語。人間社会においてロボットが従うべき三つの原則のこと。

問一 〓 線部A～Eのカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

問二 ―線部①「ペットや動物とロボットは対極的な存在だと思う」とありますが、次の図は、内の内容を図にしたものです。これについて、次の(1)～(3)に答えなさい。



(1) (あ) にあてはまる言葉を本文中から三字でぬき出しなさい。

(2) (い) に入る部分を本文中から四十字以上、四十五字以内でぬき出し、その最初と最後の五字を答えなさい。

(3) (う) (え) にあてはまる言葉を答えなさい。

問三 ―線部②「今、動物の姿をしたロボットたちが人間の世界で活躍しはじめています。」について、次の(1)(2)に答えなさい。

(1) 動物の形をしたロボットたちはどのように活躍しているのか、本文中から十字以上、十五字以内でぬき出しなさい。

(2) これまでのロボットは人間の世界でどのように活躍していたのか、十字以上、二十字以内で説明しなさい。

問四 次の文章は―線部③「人間のロボット化、機械化」について二人の女の子が話をしているものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

安子…筆者は、動物は自己主張をするし、また成長して、死んでいくという自然の営みの中にあるものと言っているわよね。つまりそのものが **A** していて、また永遠不変ではないということよね。確かにうちのタマちゃんも気まぐれで、子猫の時はとてもかわいかったけれど、今は大きくなっちゃってかわいくないのよね、言うことも聞かなくなってるし。

梅子…そうね。でもそんな生き物をペットにして寄り添い共感することで、人は二つのことがわかって筆者は言ってるわ。

安子…一つは自分達もペットと同じように「私たちに (1) (営み)」を行う生き物であると実感するということよね。でも、もう一つはどういうことかしら…?

梅子…もう一つは動物は完全に操作できないから、人はその主張を認め信頼しようとする姿勢を持つ。そして人間に対してもその視点で見ることで、人は自分の思い通りにならないものだと知ることよね。それなのに人間が自分の思い通りになるヒューマノイドをパートナーとして求めていくと、動物をペットにすることから学ぶことがなくなり、自分や他人を **B** に考えてしまう。つまり、まるで (2) () を持たないような存在となってしまうという意味で「人間のロボット化、機械化」といっているのね。

安子…本当に、この筆者、いいこと言ってるわ。うちのお母さんにも読んでもらおうかしら。だってお母さんは私を自分の思い通りにしようとしてるんだもん。私のことをちっともわかってくれないの。腹が立つわ。

梅子…でもそういうあなたもお母さんが はずと思っている点では一緒じゃない？

安子…なるほどね。

(1) **A**に入る最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 依存 イ 完結 ウ 独立 エ 成立

(2) (1)にあてはまる言葉を六字、(2)にあてはまる言葉を一字で、本文中からそれぞれぬき出しなさい。

(3) **B**に入るのに適切な四字熟語を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自画自賛 イ 自分本位 ウ 自己満足 エ 自給自足

(4) 本文の内容に基づいて、**□**に入る適切なせりふを考えて、十字以内で答えなさい。

【B】

人間たちは、動物を人間に奉仕する「家畜」へと変化させただけでなく、「ペット」として共生することに喜びを見出してきた。

特に近年は、高齢化や少子化、独居者の増加などを背景に、ペットブームが世界的に大きな盛り上がりを見せている。人間たちにとって、ペットたちは(3)のような役割を担いはじめているようだ。

*「第一の技術」「第二の技術」という考えに*倣うなら、人間の生産性を高める家畜(農耕馬や猟犬など)を「第一の家畜」、ペット動物たちを「第二の家畜」と呼ぶことができるかもしれない。

もちろん、だからといって、ペットたちと人間のあいだに生物学的な*混淆が起こったわけではないし、両者の相互理解が深まったとも必ずしもいえない。人間とペット動物とは、あくまで④(他者性)の壁に隔てられている。

だが、この(他者性)ということが重要なのだ。たとえ最終的にはわかり合えないもの同士、もしかしたらある瞬間敵に変貌するかもしれないもの同士が、それでも相互に必要とし、共生の関係を進化させていくこと、⑤それこそがまさにわたしたちの社会を豊かなものにしていくのではないだろうか。

「ロボットが家にやってきたら… 人間とAIの未来」(遠藤薫)より

〈注〉

*「第一の技術」「第二の技術」：ヴァルターベンヤミン(1892—1940 思想家)の唱える技術の分類法。

「第一の技術」は自然の制御や生産の増大に突き進む技術であり、その技術がいったん確定したらやり直しや修正ができないもの。「第二の技術」はあらかじめ修正ややり直しを許す技術。

*倣う：手本としてまねすること。

*混淆：異質のものが入り混じること。

問五 (3)に入るのに最も適切なものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 先生 イ 同僚 ウ 家族 エ 仲間 オ 後輩

問六 —線部④「(他者性)の壁」とありますが、「(他者性)」について、**【A】**の文章からその説明として最も適切な一文を本文中からぬき出し、その最初の五字を答えなさい。

問七 —線部⑤「それこそがまさに私たちの社会を豊かなものにしていくのではないだろうか」について、次の(1)(2)に答えなさい。

(1)「それ」とはどういうことですか。三十字以上、四十字以内で説明しなさい。

(2)「私たちの社会を豊かなものにする」とはどういうことをいっているのですか。具体的な例として最も適切なものを、次のア～ウから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本文化と西洋文化の特色を兼ね備えている、あんパン
イ 日本文化の伝統を守り続けている、おはぎ
ウ 日本文化の中で発展を続けている、抹茶あんの大福

